

## 令和 4 (2022) 年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築
研究代表者	高田 明 (京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授) ※令和 4 (2022) 年 6 月末現在
研究期間	令和 4 (2022) 年度～令和 8 (2026) 年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b> 本研究は、アフリカにおける養育者－子ども間の相互作用に関するデータ収集・分析により、行動の社会化、言語の身体化、制度の内面化、及びそれに伴う行動・言語・制度環境の再編プロセスを明らかにしつつ、「子育ての生態学的未来構築」として理論構築から応用実践までを目指すアクション・リサーチである。</p> <p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b> 人生初期（0～5歳）においてハビトゥス（知覚・思考・行為を生み出す身体的性向）が形成される間主観的過程とマイクロ・ハビタット（相互行為を可能にする構造化された場）とが循環的に相互構築されていく仕組みを明らかにすると同時に、その構築自体を支援していくというアプローチ（アクション・リサーチ）は人類学、心理学、言語学、社会学など幅広い分野への貢献が期待でき、学術的意義は高い。狩猟採集民と農牧民のコンタクト・ゾーン3地域（ボツワナ、ナミビア、カメルーン）を比較しつつ、コミュニケーション研究を生態学的な視点から統合・発展させ、包括的に社会性の成り立ちを理論化することが期待される。</p>